

健康と光線

睡眠と覚醒の 生体リズム

体内時計が刻む一日の生体リズムを日内リズム、概日リズム、サーカディアンリズムと言いますが、この生体リズムは昼夜（明暗）がない環境で過ごす、一日は24時間より長い25時間にセットされます。しかし一日は24時間ですから、私たちの体には朝日で一日の生体リズムを24時間に修正する仕組みが備わっています。朝日が目から入ると光エネルギーが体内時計の中枢の視床下部の視交叉上核を経て松果体に達し、松果体ホルモンのメラトニンの分泌を抑制するのでメラトニンが減少し、生体リズムを覚醒や活動に適したリズムにするのです。この際、体内時計は約15時間後にメラトニンを増やすように設定

されますので、陽が落ちて暗くなる夜になるとメラトニンが増え、睡眠や休息に適した生体リズムが始動します。なお体温には夕刻に最も高くなり、明け方に最低になる生体リズムがあります。睡眠と覚醒の生体リズムを補助しています。すなわち一日の生体リズムが正しく時を刻み健康を維持するには、規則正しい生活が求められるのです。

生体リズムと 自律神経

自律神経は体温、血圧、心拍、食欲、尿量、酵素、ホルモン、ストレスなど全般の機能を調節

朝日が作る生体リズム — 24時間周期の体内時計 —

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮

光明

係なく、一刻の休みもなく、生体リズムを調節する活動をしています。自律神経にはアクセルに例えられる交感神経とブレーキに例えられる副交感神経があり、循環器系・血管系・内分泌腺系・消化器系・生殖器系などの生体リズムの機能をコント

生体リズムと ホルモン

ホルモンの多くは生体リズムに沿って分泌されますので、日内変動があります。例えば体温を高め、活動体勢を整える作用があるコルチゾール（副腎皮質

していますが、ここでは生体リズムと自律神経について記述します。自律神経は外部環境の情報に対応して内部環境を調節する不随意神経で、私達の意志とは関

ロールします。すなわち日中の覚醒時には交感神経緊張状態になりますので、心臓の鼓動は早まり、血圧は上昇し、消化機能は抑制、瞳孔は拡大、体温は上昇、脂肪の分解、発汗、筋肉の熱産生亢進、血糖上昇・好中球増加などを認めます。一方、夜の睡眠時は副交感神経緊張状態になりますから、心臓の動きは穏やかになり、消化、吸収が促され、安心感、血圧低下、瞳孔縮小、体温低下、脂肪蓄積、リンパ球増加を認めます。

ステロイドホルモンは、それに適した生体リズムを作るため、副腎皮質から睡眠の後半の夜明け前に大量に放出されますので、一日のうち朝高く夜低いという日内変動があります。また身体の成長・修復に欠かせない成長ホルモンは、寝る子は育つという諺の通りに夜間深い眠りにつく午後10時〜午前2時頃の睡眠中に脳下垂体前葉から分泌されますので、十分な睡眠をとる必要があります。なおホルモンの乱れは体全体の乱れにつながるので注意しなければなりません。



平成二十五年 元旦

(株) 東京光線療法研究所
サナモア光線治療院

(五日より営業します)

一病息災 一病息災

めまいを起こす病気

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

はじめに

めまいという自覚症状は、比較的多い訴えの一つですが、一言でめまいと言っても、訴え方は様々です。視界がぐるぐる回る回転性のめまい、体が揺れているように感じる動揺性のめまい、立ち上がった時にフワッと立ちくらみなど、幾つかのパターンがありますが、ほとんどのめまいは、平衡機能の障害によって起こります。

バランスを取る仕組み

— 平衡機能 —

私たちは、普段の日常生活において、まっすぐに立ち上がり、ふらつくことなく歩くことは、当然のことと思っています。しかし、身体にバランスを保つ仕組みが備わっているからこそできるものであって、この平衡機能に関係した器官が協力して、初めて成り立つのです。ヒトの平衡機能は、視覚目、前庭器耳、深部感覚刺激(足の裏)という三か所の感覚器官から集まる情報を、小脳が集約し、その情報を大脳が統括することによって保たれています。特に重要な働

きをするのが、内耳の前庭器で、平衡機能を維持するため、最も大切な情報を感知しています。

前庭器の構造

内耳は聴覚をつかさどる蝸牛と、平衡機能をつかさどる三半規管と耳石器から成り立ち、後者の二つを合わせて前庭器と呼びます。三半規管は、主に、頭や体の動き、回転速度を感知し、耳石器は、体の傾き具合や直線加速度を感知します。三半規管の中は、内リンパ液で満たされていて、頭が動くとリンパ液も動き、このリンパ液の流れの速度や方向を感覚細胞がとらえ、その情報は、前庭神経を介して脳へ送られます。また耳石器は、粘性のある耳石膜に、つぶ状の耳石が多数付いた状態で、頭の向きによって耳石が移動し、その情報が感覚細胞に感知される仕組みになっています。

めまいを起こす病気

● 良性発作性頭位めまい症

誘発性めまいの代表で、頭や体の位置を変えたり、ある特定の姿勢を取った時に、激しいめ

まいが起こります。めまいは、起き上がった時、寝返りをうった時、振り向いた時などに起こり、数十秒から数分でおさまるのが一般的です。耳石器に付いている耳石が、頭部打撲、交通事故、慢性中耳炎、寝たきり等によって剥がれ、三半規管の中に入りこみ、耳石が三半規管のリンパ液の中を移動することによって、異常な情報が脳に伝えられて起こるとされます。

● メニエール病

メニエール病は有名な病気ですが、実際にはそれほど多くありません。症状は、めまい、耳鳴り、難聴が主で、発作を繰り返すことが特徴的で、回転性の激しいめまいが、数分から数時間続きます。初回発作時には、突発性難聴との鑑別が難しい場合もあります。内耳の内リンパ液が異常に増えて、水腫の状態になることが原因と考えられています。詳しくについては、明らかにされています。内耳の感覚器官に障害を起こすため、平衡機能だけでなく聴覚にも異常をきたします。

● 前庭神経炎

何らかの原因で前庭神経に炎

症が起き、めまいを発症します。

● ハント症候群

ウィルスが再活性化し、顔面神経と内耳神経に障害を起こすことによって、めまいをきたします。

● 加齢性平衡障害

寝たきりの状態に陥ると、耳、目、足裏から刺激が伝わらず、平衡機能が低下するため、めまいを誘発します。

● 椎骨・脳底動脈循環不全症

小脳に血液を送る椎骨動脈と脳底動脈の障害から血液循環に問題を生じ、結果的にめまいを生じます。

めまいと光線療法

めまいの改善には、食事や睡眠を含む生活のリズムを整えることが大切で、時には、めまいのリハビリ療法が有効です。サナモア光線療法は、心身をリラックスさせ、内耳における血液循環を改善し良好に保つため、めまいには効果的です。もし繰り返すめまいで悩んでいる方は、全身照射に加え、側頭部から後頭部にかけての照射をお試しください。

謹
賀
新
年

明けましておめでとうございます。今年も巳年です。ギリシャ神話において、ヘビは生命力の象徴であり、一匹のヘビが杖に巻きついたモチーフは「アスクレピオスの杖」と呼ばれ、医療、

サ/ナ/モ/ア/便/り



vol.52 宇都宮 正範

医学のシンボルで、世界保健機関のマークにも使用されています。巳年を迎え、本年もサナモア光線治療院では、一人一人がもつ自然治癒力を高め、多くの方々の健康増進に寄与できるように頑張りたいと考えております。

第十八期

サナモア光線治療師
養成講座のお知らせ

本年も、サナモア光線治療師養成講座を六月末に開講する予定でありますので、光線治療院の開業をご検討されている方やサナモア光線療法について勉強したいとお考えの方は、サナモア光線治療院（〇三―五七五九―三七一〇）までご連絡下さい。

なお、講座日程等の詳細につきましては、次号に掲載させていただきます。

第三十八回
「光と熱研究会」
のお知らせ

医療に関連した話題の講演や治験例の報告を中心とした研究会を開催いたしますので、一般のご愛用者の方も是非ご参加下さい。なお参加は無料です。

日 時：四月二十日土

午後二時三〇分

場 所：サナモア光線治療院
三階会議室

サナモア光線治療院

受診者の声

現在、多くの方が、サナモア光線治療院にいられています。全身照射の体験目的の方、自宅での治療を補完する目的で月に一回程度来られる方、治療院での治療を主とし週に数回来られる方など様々ですが、その方々の貴重なご意見やご感想を、「受診者の声」として掲載致します。

◆ 募 集 ◆

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法 of 普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

☆52歳、男性

右肩の痛みと右腕の拳上が困難となったため、自宅でサナモアを始めましたが、思つように改善しないため、光線治療院の全身照射を集中的に行つた方が効果的でないかと考えて来院しました。

が経過した頃から、上がらなかつた腕が拳上できるようになりました。同時にリハビリも行っていますが、今では肩関節の動きがかなり良くなり喜んでいます。

8

治療院では、一度に複数の治療器を使用するため、体の温まり方が全く異なりますし、右肩を前後から、はさみこみ照射すると、かなり痛みは和らぎます。自宅治療と並行して、治療院での治療を開始したところ、約一か月

本症例のように、自宅治療と治療院の全身照射を組み合わせることにより、治療効果を高めることができます。自宅での治療で、思つような効果が上がらない方は、サナモア光線治療院での治療を併用することを推奨いたします。

NHKテレビ 平成24年10月3日 放映 「ためしてガッテン」から クララ病・ビタミンD欠乏症

太陽は大事ですね

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

日光浴の勧め

生命を育んだ太陽光線を人工的に再現して治療に応用するサナモア光線療法の啓蒙、普及を目的に発行している本紙の紙上で、これまで太陽光線の大恩についてさまざまな角度から記述しました。中でも紫外線・UV (ultraviolet rays) によって生成されるビタミンDについては、ビタミンD不足が如何に健康に悪影響をもたらすか繰り返し記載しました。

しかし昨今、化粧品メーカーが販売する日焼け止め(サンスクリーニング)の宣伝効果もあって、紫外線はお肌の大敵でシミ・シ

ワの原因になり、浴び過ぎると皮膚ガンになるなど碌なことはいないから、紫外線を遮断するUVケアを行って美白を保つことが肝要と考える人が多数を占めるようになった気がします。一昔前、日光浴は健康の源と信じていた時代と異なり、本紙の紙面で私が日光浴やビタミンDの必要性を説いても、所詮は鰻の歯(は)じり(力)のない者が憤慨し悔しがることと自嘲するしかないと思つこともありました。

ところがNHKテレビが平成24年10月3日に放映した「ためしてガッテン」で、シミやシワを作りたくないと言間を通してしっかりUVケアをして紫外線

を浴びないと、ビタミンDが不足して、さまざまな病気のリスクになることを指摘して日光浴を勧めたのです。強い影響力を持つNHKが全国放送で日光浴を勧めたのですから、わが意を得た思いです。それでここに私見を加味して、「ためしてガッテン」の放送内容を再録することにしました。

クララ病

「ためしてガッテン」の放送は、スイスの作家ヨハンナ・シュピリが1880年から1881年に執筆したアルプスの少女ハイジに登場する親友のクララの病氣から始まりました。クララは大会のフランクフルトに住んでいましたが、自力では立つことも歩くこともできないため、一日中家の中で閉じこもって車椅子で暮らしていました。そのクララがハイジに会つたためスイスアルプスにあるハイジの村にやって来て、立つて歩けるようになったのです。原作にはクラ

ラの病氣の病名は書かれていないため、「ためしてガッテン」では、クララ病と呼ぶことにすると書いていました。その上で、クララ病はある物質の不足が原因で起る〇〇〇〇〇欠乏症で、19世紀に世界中で大流行したと言っていました。

クララ病で不足するある物質は20世紀初頭に明らかにされ、クララ病の病名もその物質の欠乏症と名付けられました。が、原作が書かれた19世紀には不足する物質は未解明で、クララがハイジと食べたチーズ、黒パン、ヤギの乳には含まれていません。またクララ病が大流行したのは世界中でなく、イギリスの都市部を中心にヨーロッパの都市です。

さて次に現在の医学知識でクララ病を解説すると、不足する物質はビタミンDで、クララが罹った病氣はビタミンD欠乏症により引き起こされたクル病ですが、原作が書かれた19世紀にはビタミンDは発見されておら

ず、ましてやビタミンDは紫外線を浴びないと不足してビタミンD欠乏症を起こすことに気付いていなかったのです。そしてクル病が19世紀にイギリスの都市部やクララが暮らしていたフランクフルトのようなヨーロッパの都市で猛威を振るつたのは、産業革命がもたらした大気汚染により紫外線が遮られたためですが、よもや大気汚染により紫外線が遮られると病氣になるとは考えなかったため、クララ病は長い間治療法のない奇病として放置されたのです。

クララが患っていたクララ病が治つたのは、クララがハイジに会つたため太陽光線に恵まれ、大気汚染と無縁な日光浴をするのに適した環境が整ったハイジの村に来て、日光浴をしてビタミンDの不足を補つたためですが、原作が書かれた時点では日光浴でクララ病が治る可能性を指摘した研究者はいましたが、医学界では正式に認められてい

(四ページからつづく)

なかったのですから、原作者のクララ病に対する観察眼は見事です。なお19世紀の日本は、産業革命とは縁遠い農業国だったので、クララ病が流行した記録はありません。

足腰フラフラ病

今回、放映された「ためしてガッテン」の主眼は、19世紀にヨーロッパの都市部で流行したクララ病と同様な症状を呈するクララ病予備軍を足腰フラフラ病と命名し、足腰フラフラ病が現代の日本人女性で増加していることを知らせて注意を喚起することです。すなわち20才代から40才代の女性15人中5人、1000人以上の大規模調査では女性2人に1人がビタミンD不足の危険領域にある足腰フラフラ病に罹っていると放送で伝え

たのです。

これに関連して、愛知県の国立長寿医療研究センターに転倒して入院する高齢者が後を絶た

ないことを伝える映像で、映し出された高齢者は年のせいで仕方ないと諦めていましたが、同センターの原田敦副院長はビタミンDの不足で足腰フラフラ病になったため足の筋肉に力が入らなくなり、バランスが取れなくなつて転倒すると言っていました。またビタミンD欠乏症に罹患した子供が意識もろろつとなつて、白目をむいて、手足がつっぱつてガクガク震えている映像が映し出されていました。母親が栄養には細心の注意を払ってきたのに何故、と疑問を呈していたのが印象的でした。

ビタミンDについて

「ためしてガッテン」では、現代の日本人が自分で気づかないうちにどんどん虚弱体質になっている大きな原因がビタミンDの不足によることを強調し、ビタミンDの多彩な作用の中から五大作用として、筋肉を動かす、歯と骨を強化、免疫力をアップ、高血圧を改善、ガン細胞の抑制

を挙げました。その一方で、ビタミンDの不足を放置すると、免疫、代謝機能などの機能が低下し、ガン、糖尿病、認知症、筋肉に力が入らず筋力がなくなり骨粗しょう症になるため転倒して骨折し、寝たきりになるリスクが高まることを述べていました。

ここでは大阪府立母子保健総合医療センターの道上敏美先生が出演され、ビタミンDについて解説されたのですが、ビタミンDは母乳に含まれないため母乳栄養の赤ちゃんは適度の日光浴が必要なこと、高齢者は活動量が減り家にこもるためビタミンD不足を起こし易いこと、ビタミンD不足があると直腸ガンは男性で10倍、女性で3倍になること、糖尿病が多発することを指摘されました。

UVケアのし過ぎ

「ためしてガッテン」では、日本人女性にビタミンD不足が増えたのは、紫外線(UV)をシ

ミ・シワの原因として敵視する時流が背景にあって、UVケアをし過ぎるのが原因と断じています。なおビタミンDはサケ、マグロ、シラスのような魚やキノコ、干しエノキのような食品からも取れますが、大半は紫外線を浴びて皮膚で作る必要がありますため、屋外で過ごす時間がないとビタミンD欠乏症になると警鐘を鳴らしています。

この場面に神戸薬科大学の岡野登志夫教授がビタミンDの權威として出演し、太陽の贈り物のビタミンDを生成する独自の日光浴の仕方を伝授してくれました。先生は日に当たるすべての部位に日焼け止めを塗ってから手を洗って手のひらの日焼け止めを洗い流し、屋外に出て、手のひらを太陽に向け、夏場なら15分以上、冬場で30分以上、手のひらに日光を浴びる手のひら日光浴を推奨し、これで充分なビタミンDが出来ると言われたのです。加えて手のひらはメラニン色素が少なく日焼けしな

いのでビタミンDが効率的に作られ、お肌の大敵のシミやシワを気にしなくて良い部分と述べています。しかしこの日光浴は手間隙かなり過ぎるので、美白を求める女性なら日光浴をしない方を選ぶと思います。

絶対に必要なビタミンDを補うには、私なら日焼け止めは使わずに顔や手を露出して、夏場なら15分以上、冬場で30分以上、屋外で日光浴をすることを勧めます。シミやシワが気になる中高年女性が美白にこだわって足腰フラフラ病になるより、少々日焼けしても足腰が丈夫な方が良いと思いませんか。私が若い頃、シミは老人性色素班、シワは老人性皮膚萎縮症と病名があり、原因は加齢だったのですが、日焼け止めが売られるようになってから紫外線のせいになったのです。「ためしてガッテン」で最後に言っていたように、大事ななお天道様に当たらないで転倒様になって骨折では様になりません。

治療例報告

サナモアで

急性胆嚢炎を治療

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL 〇七八ー三三ー二三五八

症例 40歳 男性 会社員

症状 三年前に職場の健診で、胆石症の疑いを指摘されたが、自覚症状がなかったため放置していた。その後、しばらくして、右上腹部に鈍痛を認めるようになったため様子を見ていたが、改善しないため、近医胃腸科クリニックを受診。そこで検査を施行したところ、胆嚢に細菌が感染して炎症を起こしている状態にあり、急性胆嚢炎と説明され、内服治療が開始された。サナモア愛用者である母親は、息子のこれまでの経過から、サナモアが有効ではないかと考え、息子を連れて来所した。

療法経過 治療は最初BDカーボンで、腹部(臍中心を30分、

集光器を使用して右上腹部を40分、腰部を30分照射した。その後、ABカーボンの組み合わせに変え、足裏を30分、膝を20分照射した。翌日から、自宅での

治療を開始したが、同様の方法で、一日二回以上の照射を指示した。サナモアを開始してから一週間が経過した頃には、右上腹部の痛みは感じなくなり、一か月後に、近医胃腸科で診察を受けたところ、胆嚢の炎症は落ち着き、働きも回復し、胆汁の流れも良好のようだと説明を受けた。その後、一年以上経過したが、サナモアは欠かさず続けており、胆嚢炎の再発もなく、良好に経過している。

治療例報告

前立腺癌の

サナモア治療経験

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL 〇四四ー七三ー五〇六七

症例 76歳 男性 自営業

症状 本年四月に受けた検査で、腫瘍マーカーであるPSA値(8.7)の上昇を認め、精査を施行。前立腺の組織検査を行い、前立腺癌と診断されたが、以前

サナモアで肺癌を治療した愛用者の紹介で来所した。なお、患者は、以前から痛風を患っており、合わせて治療する方針となる。

療法経過 治療は、四台の治療

全自動光線治療器

はつらつさんと

ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてききました。この点を改良したのが全

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、カーボンの消耗に合わせてジョイントできるサナモアカーボンをつないでおけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

*

なお、はつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

器を使用し、BDカーボンの組み合わせで行った。始めに側臥位で、顔面を15分、腰部から臀部を60分、膝を15分、足関節を30分照射。さらに下腹部を30分、後頭部を15分、足裏を30分照射した。次に仰臥位として、左右の肩を15分、左右の側腹部を上の方より30分、左右の膝関節側面を15分照射した。患者は多忙な日々を過ごしているようだった

が、自宅で毎日照射するよう指示し、病院での定期的な検査は必ず受けるよう指導した。四月から七月までは、PSA値は8代で推移していたが、八月に入り、PSA値は7代と低下傾向にある。現在も、病院での治療と並行して、毎日、サナモア光線療法を継続しており、良好に経過している。

体験例報告

長期ステロイド療法からの離脱体験

花巻市 菊池 隆春氏報告

私は、縁あってサナモアを知り、この治療法を最後にしようと決断しました。生れつき湿疹がある私は、これまで、我慢のできない痒みと痛みに三十年以上も悩まされ続けています。飲み薬、塗り薬、注射、健康食品、電位治療器、高気圧酸素、デトックス、整体、温泉、ドクダミ療法、水泳、気功等ありとあらゆる治療を体験しました。しかし、完治どころか、ますます、皮膚は醜くなって、ステロイド剤なしには、耐えられない身体になってしまいました。私は、サナモアと言った葉すら、聞いたことはありませんでしたが、信頼する方からの完治するのなら、サナモア光線療法しかないという言葉に、かけてみることにしました。

平成23年6月13日に初めて、その方からアドバイス頂き、翌日の14日から、F太陽光線治療院でお世話になりました。三十年以上の使用で、ステロイドが全く効かなくなっていたこと

もあり、リバウンド覚悟で、ステロイドを止め、解毒療法であるサナモア光線療法を選択しました。治療は、鼠径部周辺と耳を重点とした全身照射が始まりました。6月は草刈等の農作業が、一日一時間位しか出来ませんでした。7月、8月は二時間くらいできるようになりました。9月は、オートバックスでの商品搬入と棚への商品設置作業、岩手県知事・県議会議員選挙投票事務の計二日間の仕事ができるまでに回復しました。ただ10月になると、予想をはるかに超えるリバウンドが始まり、35度だった体温が36度を超え、身体が火照り、激しい痒みで、血と膿が噴き出すようになり、通常は二時間だった治療を、自宅で毎日四時間以上行うようになり、サナモアを照射しない鼠径部周辺から足首まで、血腫がロウの様に固まってしまい、激しい痒みでたまりません。11月になると、皮がむけて、

痒みと痛みで歩行困難な状態になり、柿の収穫作業が、辛うじて出来るくらいしか働けなくなりました。

12月は、思いだしたくない程、最もリバウンドが激しい月でした。まるで寝たきりの廃人状態になり、床ずれができて、サナモアを照射すると激痛で、毎日一時間しかできなくなりました。食事は痛みと痒みで、食器をひっくり返してしまつたため、食べ終わるのに約三時間かかりました。風呂に入ると、むけた皮と油で、湯船のお湯が、すぐ汚れてしまいます。水圧さえも激痛なので、波をたてずに固まっている状態で、風呂からあがると、自分が歩く風圧さえも痛く感じました。歩くとき下着との摩擦でこすれるため、痛くて足が前に出ません。眠れず一晩に三回以上、跳ね起き、その都度一時間は掻きむしりました。まるで被爆して皮が焼け落ちたような状態なので、何度も自分の首を絞めたり、頭を拳で殴ったりして、痛みを紛らわすことも度々でした。とにかく、万力で頭部をしめあげられ、溶岩を流されたような灼熱感と激痛で、身体は、てんぷら

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持てませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

株東京光線療法研究所

油をかけられたように熱く、冷たい海に飛び込みたい気分、そばに拳銃があったら撃つていたかもしれない程、追い詰められた精神状態でした。毎朝、目覚めると、下着は血と膿とむけた皮でぐちゃぐちゃで、両耳は膿で完全に塞がって、痛痒い状態、耳かきで膿をすべて取り除きます。排便時は、しゃがむだけでも、傷口がひっぱられ、飛び上がらんばかりの激痛が走ります。この時ばかりは、何も

役にたたず、生まれてきてごめんの心境でした。

平成24年1月、自宅でサナモアを毎日三時間かけられるまで、痛みは和らいできました。2月は体温が、35度に戻り、首を絞めたくなる程の痛みからは解放されました。F太陽光線治療院でサナモア照射中に、現実なのか夢なのか、光に包まれる体験をした直後、三時間程ではありますが、無痛状態になり、感謝の涙が止まらなくなりました。

3月は、1月に逆戻りしたように、痛みと痒みが強く、ひたすら忍耐でした。4月は、サナモアを毎日四時間かけられるまでに痛みが和らぎ、一進一退のなかにいましたが、5月になると、約4kmの散歩ができるようになりました。

6月は、下痢にもなりましたが、痛みには耐えながら自分の足で5km程度は走れるようになり、感謝で涙が止まりませんでした。

7月は下痢が頻回で、緑色や黒色の便が便器から溢れる程出ましたが、徐々に、量も少なくなり、排便時の痛みも和らいできました。まるで、三十年以上使用したステロイドを排泄しているような感覚でした。8月も下痢15回。この頃、サナモアを照射すると、皮膚から黒い油汗が出るようになり、苦痛だったサナモアが、とても気持ち良く感じられるようになりました。

9月は下痢8回。徐々に皮膚の状態が良くなってきました。10月は下痢の回数も減り、10km走れるようになりました。以前とは違い、体温が36度を超えても、痒み痛みが少なくなりました。一人になった車や布団の

中で、歓喜の涙が何度も溢れてましたが、その都度、目からステロイド軟膏のような物質が出て、痒みが軽減していききました。本当にありがたかったです。11月は下痢2回。一日五時間、農作業ができるまでになりました。通院を三日連続で休んでも、痒み痛みを我慢できるまで回復しました。サナモアと出会ってから約五百日ですが、ようやく治療する前よりも良くなってきました。完全復帰までは、それなりの期間、治療が続くと思いますが、真つ暗闇から一筋の光明が差してきたようです。

Y先生、そして一緒に治療に励んでいる皆様方には深く感謝しております。手作りの自然食弁当、ご自身のサナモア体験談、薬物療法体験談、民間療法体験談、ひたむきに病気に立ち向かう不屈の精神、前向きなアドバース等、家族のような絆で結ばれた人達に支えられて、ここまで来ることができました。自分のことは、後回しにしても、本当に苦しんでいる人に対して、愛情をもって、接してくれる姿に感動致しました。もちろん、掃除、料理、洗濯、金銭面で応

援してくれた家族にも、この場をかりて深くお礼申し上げます。

今回の経験を通して、ステロイドの恐ろしさを一人でも多くの人に伝えることは、身をもって体験した私にしか出来ない使命だと悟り、投稿する決意をするに至りました。ステロイド軟膏依存症で苦しむ皆様方に伝えたいと思います。医療従事者の方々におかれましても、脱ステロイド療法で孤軍奮闘している方が少なからずおられるのは、大変心強い限りです。

世界中の痒みに苦しむ方々に、サナモア光線療法を軸に治療効果のある民間療法を精査し発信することが必要だと実感し、微力ながらお手伝いさせて頂きます。

サナモア体験記募集

サナモア光線協会では、皆様からの体験記を募集しております。なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。

サナモア体験記の投稿について、メールでの募集も開始いたしました。下記のアドレスまで、お気軽にご投稿をお願い申し上げます。

メールアドレス：

sanamore@hr.catv.ne.jp



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行
二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。

また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三―五二八二
三七二一―五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)